



みなさん、おめでとうございます！



『警察協力章』受章

多久地区防犯協会連合会監事
瓦田一生さん（北多久町）

瓦田さんは、昭和53年国鉄退職後、昭和55年に地元区長を引き受けて以来、現在まで30年にわたり、地域の防犯活動に関わられています。青少年の育成を第一に願い、防犯で市民の安全・安心を確保しようと、組織運営の基礎づくりから、活動強化に尽力。多年にわたる防犯関係団体の育成、発展への功績が受章となりました。

子どもたちを犯罪から守るボランティアグループ『孔子の里パトロール隊』も立ち上げた一員で、民間人への警察表彰では最高位の表彰に瓦田さんは、「充実した活動をするための資金協力で奮闘しました。みなさんの協力のおかげで活動強化ができ、今もしっかり受け継がれた活発な活動が嬉しい。推薦してくれた方に感謝し、健康で長生きできたことで受章でき感無量。亡妻と祝えないことだけが残念です」と話されました。



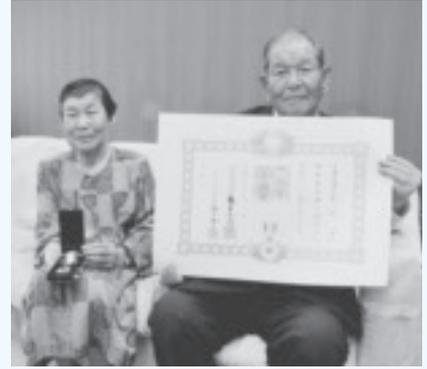
春の叙勲『瑞宝単光章』受章

元六角川水系牛津川妙見橋水位観測所観測員
中山博通さん（北多久町）

中山さんは、東多久町にある妙見橋付近の水位観測員を昭和43年に父親から受け継ぎ、平成16年までの36年間、長きにわたり業務を全うされその功績に叙勲が贈られました。

市内の自動車学校に勤務される前後の朝6時と夕方6時、毎日2回、水位を観測し、毎月記録簿を武雄河川事務所に提出。洪水が起きない川にするための計画・調査に協力しながら、川の変化も目の当たりされて来られました。

中山さんは、「冬などは暗闇の時間帯なので、懐中電灯を持って土手を下りて水位盤を確認していたので、不審者に間違われたり、時間を守ることに苦労しましたが、苦痛と想ったことはありません。家族の協力でやり遂げられ、ありがたい章です」と思い出を語られ、「昔生息していた生き物がよみがえるきれいな川になってほしい」と願われていました。



高齢者叙勲『旭日単光章』受章

元市議会議員
梶原 守さん（多久町）

梶原さんは、昭和58年4月に初当選以来、平成7年4月まで3期12年の長年にわたり市議会議員として在職されました。

卓越した識見と実行力・指導力で、住民の信望も厚く、その間、文教厚生常任委員会委員長、建設経済常任委員会副委員長、都市開発に伴う水資源対策特別委員会副委員長などの要職を歴任される一方で、多久町体育協会会長としても尽力。市政発展のために寄与された多大な貢献に対し、88歳の今年、叙勲が授与されました。

梶原さんは、「身に余る光栄で、今日まで私を支えてくださったみなさまのおかげと深く感謝します。少しでも世のお役に立つことができればと心掛け、余生を送りたい」とお礼の言葉を述べ、感慨深くされていました。

（写真でご一緒は奥様のミユキさん）

作品『求愛』は、ムツゴロウの愛を深紅のバラで強調したもので、昨年に続く2年連続の入賞。甲斐さんの作品『渚のエチュード』は、フルートを吹く女性の内面をカサブランカで表現したもので、今回が初入賞。冬野さんは、「ユネスコ国際美術連盟の会員に承認されたことも嬉しく、さらに上の公的賞を目指したい」と、甲斐さんは「技術をつけ、一歩ずつ上を目指し、人に感動を与える絵を描きたい」と目標を話され、絵を楽しむ仲間が増えることを望まれていました。

第81回新構造展（新構造社主催）で、冬野健二郎さん（東多久町）が特別賞の「三村賞」、甲斐藍子さん（北多久町）が「東洋クロス賞」を受賞されました。同団体は、他展が未だ開催しない戦後の昭和21年から東京都美術館で展覧会を開いた歴史ある美術団体で、絵画や版画など5部門に分かれて活動。2人はその絵画部の会員で、佐賀支部に所属。絵画部門に全国から約600点が出品された中で、「多久の2人が受賞できて嬉しさ2倍。そして大きな励み」と喜ばれています。ともに100号の油絵で、冬野さんの



冬野さんと甲斐さんの
絵画作品がダブル受賞
—第81回新構造展—